

第二回汎太平洋學術會議概況

汎太平洋學術會議の目的は太平洋沿岸諸國の科學者相協力し、是等諸國に共通の重要なる學術問題、殊に太平洋に關する問題を研究すると共に、國交の親善を圖り世界の平和に貢獻せんことを期するにあり。而して第一回同會議は大正九年ホノル、に於て之を開催し、第二回同會議は昨大正十二年メルボルン及びシドニーの兩市に於て開催せられ本邦代表委員として櫻井博士を初めとして大森、山崎、池野、新城博士等の十學者之に出席せり。

開會式は八月十三日メルボルン市公會堂に於て舉行せられ八十七人の海外代表委員を併せ數百の來會者ありて濠洲聯邦總督の開會の辭等ありたり。會議はメルボルン市に於て八月十三日より同月二十二日まで十日間、シドニー市に於て翌二十三日より九月三日まで十二日間之を開きたり、兩市共に會場は大學の諸室を之に充てたり。

部門は農學、人類學—人種學、植物學、昆蟲學、林學、測地學—地球物理學—無線電信學、地理學—海洋學、地質學、衛生學、獸醫學、動物學の十一科目に分れ（シドニーに於ては測地學—地球物理學—無線電信學を分ちて各別の三科目とせり）、部長は海外代表委員中より選任し、幹事は濠洲側代表委員之に當ることとせり。本邦代表委員中メルボルンに於ては山崎（地理學—海洋學）、仁田

(獸醫學)の兩氏、シドニーに於ては大森(地球物理學)、池野(植物學)の兩氏部長に選任せらる、而して部會は單獨に開く外、他の部と聯合會を開くこと數回に及べり。

シドニーに於ける總討論會の題目は「太平洋地方の構造及其の動植物に及ぼす影響」「太平洋地方の氣候、其の變化の原因及び之と經濟生活社會生活との關係」等なりき。

シドニー會期の最終日即ち全會議の最終日に開かれたる總會の決議事項の主要なるものは第三回汎太平洋學術會議を一九二六年日本に於て開くことに決したる事項なりとす。

遊覽及び見學旅行は汎太平洋學術會議の一の特徴にして而も其の重要部分を成せり、されば周到なる注意を以て準備せられたる多數の遊覽及見學旅行は殆ど毎日催されたるのみならず、數日を要すべし稍大規模の見學旅行は閉會後に於て之を行へり。

通俗講演も亦汎太平洋學術會議の一特徴にして其の演題及講演者は次の如し。

マオリ民族の風習 (バツク) 地球の内部 (ホツプス)

中央亞細亞の沙漠民族 (ハンチングトン) イースター島の奇事 (ブラウン)

ハワイ太平洋に於ける科學の裨史 (グレゴリー)

マオリ民族の裨史と文化 (バツク)

西南太平洋に於ける諸民族の移動 (ハッドソン)

フイリツピンに就いて (メリル)

我が代表委員に對する濠洲官民の款待は實に懇篤慰勲を極め各方面より各種の招待を受けたり。又我が櫻井博士は太平洋沿岸諸國の國交親善を以て氏のメルボルンに於ける開會式演説の骨子とされたるのみならず、濠洲に對し我邦を充分紹介さるゝ勞を取られ、各種の多數人士と相接し、屢々國交の親善世界の平和に資すべき演説を爲され、又數回新聞記者と會見して、我邦の平和的態度を明にされ以て、特に日濠の親善に貢獻せられたり。

以下各部會の會議中地學に關係ある事項を掲ぐ、

測地學—地球物理學部會　メルボルンに於ける此の部會の會議に大森博士は「脈動に就いて」及び「破壊地震の震動の性質」なる二論文を、新城教授は「日本に於ける重力測定」及び「或る地と天との状態の比較研究」なる二論文を提出されたり。本部會の決議の主要なるものは次の如し、

- 一、世界の百萬分一國際地圖を製作することに關係せる各國政府は速かに是等の地圖を公表出版されんことを希望す。
- 一、トランギ地磁氣觀測所の地理的位置が國際的共同觀測に唯一好適の機會を與ふること、南半球に於ける地磁氣觀測所の甚だ少なきことに顧みて、本會議はヴィクトリア政府が、該觀測所に於ける觀測の整理と、成果の公表とに關して適當の處置を取らるゝことを急要と認む。
- 一、本會議は磁氣なしの測量船カーネギー號が地球物理學者及び航海者に對し甚だ有益なる研究をなしたることに關し其の業績を尊重することを記録し、猶更に新洋面の磁氣的探査と地磁氣の永年の變化の測定とによつて、この事業を繼續せられんことを希望す。

一、本會議は日本帝國政府が太平洋に於ける委任統治區域内の島嶼の一に地球物理學的及び天文學的觀測所を設立せんことを考

慮中なる趣を承知し、この事業の學術的價値に對する本會議の確信を聲明し、この計畫の速に實行せられんことを希望す。

シドニーに於ける測地學及び地球物理學部會の會議に於ては大森博士は地震に關する二つの論文を、新城博士は「太陽活動の地球顯象に對する關係に就いて」と云ふ論文を提出せり。又其の會議は四つの事項について決議せり。

地理學地質學部會 八十七名の海外委員中地理學地質學兩部に屬するもの實に其の四分の一を超え十二部會中の最多數を占め、各部會中にありて最も盛況を呈し見學旅行の如きも主として地理學地質學の研究に興味ある所を選びたるもの最も多く、又シドニー市に於ける公開通俗講演の多數は此二學若くは之に關聯せるものにして宛も地理學地質學大會を催せるの觀ありき。而して開會前に配附せられたる學術討議の要目に對し本邦學者の提出せる論文報告は次の如し。

- | | | | |
|---|-------|------------------------|-------|
| 一、日本地質調査事業 | 井上禧之助 | 矢部長克 | 青木廉二郎 |
| 一、日本産銅、鐵及石灰 | 同上 | 一、琉球及び臺灣に於ける隆起珊瑚礁の時代 | 矢部長克 |
| 一、日本に於ける火成岩噴出活動の時代殊に之を鐵床成生の關係に就きて | 加藤武夫 | 一、樺太島の地形に就きて | 山崎直方 |
| 一、日本油田地質概観 | 小林儀一郎 | 一、日本に於ける地圖製作の現況 | 同上 |
| 一、日本列島及び附近の太平洋諸島の山脈構造に關し | 小川琢治 | 一、日本に於ける地理學教育の現況 | 同上 |
| 一、火山力の關係重大なることに就きて | 同上 | 一、太平洋沿岸地方に於ける共通的地形に就きて | 同上 |
| 一、一九二〇年乃至一九二三年間に於ける日本新生代地層の層序學及古生物學上の研究 | 同上 | 日本の特色 | 同上 |
| | | 一、日本の産産に就きて | 同上 |

此の他地理學部に於ては小倉伸吉氏一、潮流の豫報に就いて、二、北太平洋に於ける潮汐に就きての二論文を講述し、大島正滿氏は臺灣の民族と生物とに就きて講述する所あり、又地質學部に於ては米國ザオン博士は松本彦七郎氏提出の論文を紹介せられたり

メルボルンに於ける地理學部會の討議としては第一に太平洋沿岸各地の地圖製作に關する件にして、此の際本邦及び和蘭より出陳せる數多の地圖は著しく會衆の注意を惹きたり。地質學部に於る討議事項の主要なるものを擧ぐれば次の如し。

- 一、太平洋沿岸地方に於ける新生代地層の相互關係
- 二、太平洋方面に於ける特殊鑽床區の地理的及び地質的分布
- 三、太平洋の構造研究（地理學部と聯合）
- 四、太平洋方面に於ける中生代以後の火山活動

シドニーに於ける地理學部會に於ては主として次の事項を討議せり。

- 一、地理學教育問題
- 二、熱帶地方植民問題（衛生學部會と聯合）
- 三、太平洋沿岸地方の自然地理的共通性（地質學部と聯合）
- 四、珊瑚礁問題（同上）
- 五、乾燥地帯の地理
- 六、民族移住問題（人類學部と聯合）

シドニーに於ける地質學部會は次の事項を討議せり。

一、太平洋沿岸地方に於ける石炭紀二疊紀地層の研究

二、太平洋沿岸地方の自然地理的共通性(地理學部と聯合)

三、珊瑚礁問題(同上)

四、太平洋方面に於ける石油及地下水利源の研究

五、太平洋方面各地の地質調査事業、殊に礦物富源の調査に就きて

メルボルンに於ては會期中數回の小旅行あり、主として同大學教授之を指導せり。就中同地方玄武岩臺地の地形を始め古生代に於ける氷河の成生に係る地層の如きは興味極めて大なるものなり。シドニーに於ては會期中其の近郊又はブリューマウンテン地方まで一日乃至二日の小旅行を催し、閉會後には長期の旅行數種を行へり。

地理學部會の決議事項中重なるもの次の如し。

- 一、本會議は太平洋沿岸諸國に於て百萬分一地圖の今日までに刊行せられたるもの總かに數幅に過ぎざるを以て爰に一九一三年パリ會議に参加せる諸國政府に向て此際成るべく速かに該圖幅を刊行されんことを勸告せん。
- 一、本會議は國際水路局の提議に従ひ精確なる海岸測量を實行するの愈々必要なるを鼓吹しオーストラリア大堡礁の精細なる海圖を作ることは科學的經濟的兩方面の利益少なからざることに就きて特に世の注意を促さん。
- 一、本會議は太平洋中の遠隔なる各地方間に氣象報告を無線電信によりて交換することに關し適切なる方法の講究されんことにつきて當局の注意を促し而して天氣豫報の國際的交換の範圍を此等の地方まで擴張されんことを切望するものなり。
- 一、オーストラリア學術研究會議會長は太平洋の溫度、鹽分、水素飽含量及び海流を調査する委員を指名し、該委員會は本會議に参加し且つ現に該調査を實行しつゝある各國より少くとも一名の代表者を出して組織せらるべし。

地質學部會の決議事項の重要なるものは次の如し。

一、太平洋沿岸諸國の地質圖を百萬分一縮尺を以て成るべく速かに完成せんことを望み且つ此の事業を進捗せしむる爲め各國の代表委員を指名されんことを望む。

一、フィジー諸島に於て地質調査を行ふことは一方に於て珊瑚礁の成生と太平洋に於ける地殻の動搖を明かにし科學上の利益大なるが上に一方に於ては又礦物富源に關する重要な發見をなし植民誘致の上に於て利する所亦少なからざるべし、由て本會議は爰に此の事業の實行せられんことを切に希望す。

一、太平洋方面の地體構造を一層組織的に研究せんことを望み次回會議に於て此問題に關する研究の結果を發表せんとするもの爲めに主要なる諸國より委員を選出して之に其の研究の要目を立案起草せしめんことを望む。

一、太平洋中地殼不安定の地方に於て經緯度の精確なる測定を行はんが爲めに系統的觀測を行ふの極めて重要なるを認め此の觀測は規則正しき期間に於て(例へば五年毎に一回)反覆之を行ひ何程の水平的運動がありたるかを測定せんことを欲す、其の測定地點の如きは本會議によりて指名されたる委員の選擇に一任せんす

一、太平洋方面に於ける氣象學上地震學上觀測の重要なるを認め本會議はサモア島觀測所の技術者及び施設を増加し其の既に開始せる事業の一層有效に永續せんことを望む。

一、ニュージーランド温泉地方の系統的調査より生ずる科學的經濟的效果の少なからざるものあるを以て本會議は爰に該地方に地震火山觀測所を設立されんことを切に希望す

一、珊瑚礁研究につきて各方面の協力を望み殊に航空機觀測の要あるを認めんと欲す。

一、本會議は科學的經濟的方面よりオーストラリア大堡礁に關する問題を研究するため最近組織せられたる委員會の設立に少なからざる満足の意を表し其の科學的研究を行ふが爲め作製せられたる計畫を衷心より是認するものなり。

植物學部會　メルボルンに於ける講話論題の主なるものはヅキクトリア洲の森林、濠洲及びカリ

フオルニアの巨樹、ジャバ島クラカタウの植物、濠洲の近傍諸地植物分布に對する影響、蘭科植物の分布、日本植物分布の狀況等なりき。又シドニーに於ける主なる講話論題はニウ・サウス・ウエールズ洲不毛地植物の生態、セクオイア屬の年齢習性及び生長、濠洲植物成立の要素、アカシア屬の進化、東濠洲の青酸を産出する植物、ポリネシア植物學の文献、さといも論、ニウ・サウス・ウエールの雜草及び外來植物逆行變異論等なり。本部會に於ける決議事項の主なるもの次の如し。

- 一、南極及び北極地に於ける植物分布及び移轉の狀況を知る爲めマカリー島及びアリウシアン島植物調査を希望すること。
- 一、ジャバ島クラカタウ植物調査を猶ほ繼續することを希望すること。

- 一、太平洋植物等に關係する文献の作成は緊急必要なることを認むること。

農學部會 メルボルン會議に於ける主なる報告は次の如し。

- 一、灌溉に關する問題——植民と灌溉事業との關係、グイクトリア洲に於ける貯水事業及び水の利用、マレー河流域に於ける灌溉事業の發達。

- 一、農業教育及び研究に關する問題。

- 一、土壤問題並に土性問題——カリフォルニアに於ける土性調査等。

決議事項中の一項は次の如し。

本會議は適當に組成せられたる土性調査の經濟的に甚だ重要なるものなるを認め環太平洋諸國政府に此の事業をば可及的速かに施行すべきこと及び土壤及心土の物理的性質が本調査の基礎たるべきこと並に能ふべくんば各種の土壤に成長せる植物の自然分布の特性を記録すべきことを勧告す。

シドニーに於ける農學部會にて發表せられし論文中地學に關係あるものは次の如し。

クインズランドに於ける砂糖業の概略、ニッ・サウス・ウエールズに於ける綿生産の氣候的環境、日本の農業の進歩、日本の稲作英領馬來に於けるゴム栽培の近來の發展

動物部會のシドニーに於ける會議に於ける次の論文の公表ありたり。

一、フリン教授は發生學の見地より有袋類の系統に論及し現今他の大陸に棲息せる哺乳動物と有袋類とは何等統的關係なく全然別個に發達せるものなりと主張す即ち哺乳類は胎盤を有する原型より發達し有袋類は卵生動物より別途を取りて發育せるものなりと説きたり。

一、ロンゲマン氏は有袋類の化石を研究せる結果を發表し往時は濠洲に巨大なる有袋類の存在せる事を立證せる後等化石の多くは濠洲北部及びパプアに發見せられ南部に向ふに従ひて種類を減する旨を述べ有袋類は北方に發生して漸次南方に向ひたるものなりと結論せり。

此の他次の如き題目の講演ありたり。

太平洋に産する貝類の分布状態、布哇産陸棲貝類の分布状態、比律賓産淡水魚の分布を論じ併せて有史以前に於ける比律賓群島と他の諸島との地理的關係、地理的環境に起因して生ずる陸棲貝類新型の發生。

——學術研究會議編第二回汎太平洋學術會議報告抜萃——